

# ブック村だより

## 本学コレクション紹介 (29)

- ルソー 『政治経済論』④ ..... 森岡 邦泰(1)
- 著書『グローバリズムと国家資本主義』紹介..... 坂田 幹男(2)
- 人との出会い、本との出会い..... 石黒 亜維(3)
- ぶっくす・なう..... (4)
- 『遙かなるセントラルパーク』 谷岡 一郎
- 『日本映画 隠れた名作-昭和30年代前後-』 塩田 眞典
- 『トップエコノミストが教える金融の授業』 佐和 良作
- 『弥縫録：中国名言集』 下山 晃
- 学生選書スタッフ活動を振り返って..... (6)
- 「大阪商業大学学術情報リポジトリ」の提供を開始しました ..... (7)
- インフォメーション・開館案内..... (8)



## 本学コレクション紹介 (29) ルソー『政治経済論』④

画像：高橋・海老沢訳『ルソー全集』第10巻 白水社 1983.12

ルソーは若い頃は名士にあこがれていた。「芸術界の名士といえ、パリではつねに豊かな財産がつきまとうものである」(『告白』)から。音楽の新記譜法では失敗したが、オペラ「パリの占者」の成功で、国王から年金ももらえるはずだった。しかし王に拝謁するのを潔しとせず、自ら棒に振った。その後作家として成功を取めたが、世を捨てる決心をした。社会人としての非常識さから、周囲との軋轢が絶えなかったのである。そうして16歳で故郷を出奔して以来、さまざまな職業を転々とした

後、最後に選んだ仕事は、楽譜写しであった。楽譜を1ページいくらで写す仕事である。「私は、蓄財や出世の計画を永久に放棄した。いくばくもない余生を、独立と貧困のうちにすごそうと決心した。」

ルソーが晩年に長年内縁関係にあったテレーズと正式に結婚したのも、出世の放棄と関係しているかもしれない。何しろ貴族社会では出世には縁故が重要であるから。そして最後は「孤独な散歩者」となったのである。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

# 著書『グローバリズムと国家資本主義』 紹介

坂田 幹男（経済学部 教授）

このたび出版されました経済学部 坂田幹男先生著書について、坂田先生より学生の皆さん向けに解説を頂きました。ぜひご一読ください。



私たちが暮らしている社会は、通常「資本主義社会」と呼ばれています。資本主義とは、19世紀のイギリスの経済学者アダム・スミスが指摘したように、「神の見えざる手」、すなわち市場メカニズムの働きによって一国の経済的諸要素を最適な配分に導こうとする社会です。

しかし、現実には、このような市場メカニズムの働きだけによって経済活動が営まれているわけではありません。日本の明治以降の近代化（工業化）の歴史にみられるように、資本主義の発展には国家が重要な役割を果たしてきました。また、今日でも、多くの国で民間企業だけでなく国有企業も重要な役割を果たしており、政府も重要なアクターとなっています。

このように、一口で資本主義といっても、そこにはいくつかのタイプが存在しています。私は、そのタイプを分類する基準として、「市場」と「国家」の関係を考えました。今日米国で支配的な経済学は、市場メカニズムに対する国家（政府）の介入や規制を取り除いて、可能な限り「神の見えざる手」の働きにゆだねようとする考え方（新自由主義）に基礎を置いています。他方、中

国などでは、市場経済化を目指しながらも、国家の経済過程への介入や規制はかなり強く、国有企業も依然として大きな比重を占めています。

私は、市場メカニズムに対する国家の介入が著しく強い資本主義を「国家資本主義」（国家+資本主義）と名づけました。そして、その場合の国家とは、権威主義的な、あるいは民主主義を著しく制限した独裁的な「国家」として指摘しました。このようなシステムは、歴史的にみると、経済成長とか開発といった国家的目標を実現する上ではある程度まで効果的で、しかも短期間で目に見える成果をあげてきました。しかし、それは他方では、地域格差の拡大、裾野産業の欠如、環境破壊と公害問題の深刻化、社会資本整備の遅れ、安易な模倣、拝金主義、権威主義・官僚主義の横行など、さまざまな弊害を伴うものでもありました。そして、このような弊害を取り除くには、とても多くの犠牲と時間が必要であることは、これまでの国家資本主義の歴史（たとえば韓国など）から得られた教訓でもあります。

しかも、「大競争時代」と呼ばれるグローバル化が著しく進展する今日のような時代には、「非市場経済措置」を多く残す「国家資本主義」は周辺諸国との間に経済的摩擦をひき起こさざるを得ません。私は、中国の現下の体制を、「国家資本主義」と考え、その弊害を指摘すると同時に、グローバル化の進展する現代では、遅かれ早かれそのような体制は終わりを迎える運命にあることを指摘しました。

ただし、私は、「市場メカニズム」にゆだねることが唯一の最適方法であると考えているわけではありません。「市場」と「国家」の望ましい関係は、経済学の永遠のテーマであると考えています。

# 人との出会い、本との出会い

総合経営学部 商学科 石黒 亜維



大学院生の頃、中国を旅行した際にお土産として購入した扇子に「孔子論語十七章」と題して『論語』の有名なフレーズが載っていた。「よし、これだけは…」と思いたち、17フレーズすべて原文読みと漢文読みで暗記した。その中で一番印象に残り今でも頭から離れない一節が「学而不思則罔，思而不学則殆」である。中文、漢文とも音読した際のリズムが大変心地よく、またその意味するところも、「学問の本質を突いている!」と直感したからだ。

その後、かねてから愛読していた加藤周一の著書の一つに『学ぶこと、思うこと』（岩波書店、2003年）というブックレットがあることを知りすぐに入手した。タイトルはまさに『論語』のこの一節、「学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し」からとったものである。『論語』に関しては解説本が世に溢れており、この句は通常「知識を得るだけで考えることをしなければ活用することが出来ず宝の持ち腐れであり、考えるだけで学ぶことをしなければ独りよがりて盲目的となり危険だ」などと解される。加藤氏は同書の冒頭でこのフレーズを取りあげ、「学ぶ」対象が「与えられた知識」「客観的な体系」であるとすれば、「思うこと」は「主観的な可能性の問題」として、各人が「問題意識」をもち、よく考えることが大切であると述べている。

薄いブックレットでありながら、この本は私に大きな刺激を与えるものであった。なぜなら、一つに、これまで漠然と考えていた「学ぶ」と「思う」こととの関係を適切な言葉で分かりやすく説明してあり、二つに、ある話題を考える際は「適当な正確さで用語を定義すべき」（その定義が正確であればあるほど良いというものではない）とし、言葉遣いの重要性を指摘していたから

である。そしてこの『学ぶこと、思うこと』と「論語十七章」は、大阪商業大学に就任後、本学の「建学の理念」を想起させた。

「建学の理念」を支える4つの柱に目を向けると、「柔軟な思考力」と「基礎的実学」、これはまさに「思うこと」（＝応用力、創造力、自由な発想）と「学ぶこと」（＝知識の獲得、基本の学習）の関係に相当するのではなからうか。そして「思いやりと礼節」に関しては、「恕」（＝思いやり）という言葉がびったりとくる。これは、孔子がある弟子から「人が一生涯実行すべきと佳言は何か」問われて答えた言葉で、具体的に「己所不欲、勿施於人」（＝自分が人にされたくないことを人にはしないことだ）と述べている。では「楽しい生き方」についてはどうか。これも「十七章」に、おのれの欲せざる所 人に施すことなかれ 知之者、これを知る者は 不知好之者。これを好む者に如かず 好之者、これを好む者は 不知樂之者。これを楽しむ者に如かず（＝「知る」は「好き」に及ばない。「好き」は「楽しむ」に及ばない）というフレーズがある。すなわち生きることを楽しむことこそが幸福であるという意味だ。

そもそも『論語』とは孔子の著書ではなく、孔子の言行録を彼の弟子達がまとめたものである。そこから様々な孔子像が作られるが、教育という仕事に大変な情熱をもっていた一種の「教え魔」であったことは間違いない。そしてその目的は「世に役立つ人物の養成」であったと言えよう。

以上、ややこじつけのよう話となってしまったが、ビジネス界でも教育現場でもいつの時代も人材育成は重要課題の一つであり、著名な経営者らがしばしば「論語」を引き合いに出すことからそれは明らかである。学生のみなさんが、ぜひこの『学ぶこと、思うこと』をきっかけとして、楽しく積極的な気持ちで講義（知識の吸収）やゼミナール（考察・発信）に臨み、豊かで実りある学生生活を過ごせることを願う次第である。なお「学」と「思」についてさらに興味のある方は、一海知義『論語語論』（藤原書店、2005年）のp.123～もぜひご一読下さい。



所在:2階「ブック村」コーナー

## 『遙かなるセントラルパーク』

(文藝春秋, 2014.12)  
トム・マクナブ 著

いつもなら、ここで取り上げる「オススメ本」を何にするか迷うことがあります。しかし今回は他の候補作は存在しないも同然で、その理由は、トム・マクナブの『遙かなるセントラルパーク』が新装版で復刊されたからです。

このコーナーは皆に読んでもらいたいオモシロ本、特に（私の目から見て）隠れた名作を紹介することが主目的ですが、その考えに最適の一冊は本著でしょう。私は1980年代半ば頃に読んであまりのオモシロさにとにかく驚いた。私個人の本の殿堂（年に1～2冊選ばれる、オモシロ本の棚）入りを果たした一冊であります。復刊を心よりうれしく思います。

1931年、アメリカの西海岸（カリフォルニア州

ロスアンジェルス）を出発した1,000名ほどのランナーたちが、ひたすら東海岸のセントラルパーク（ニューヨーク）をめざす。女性や小柄なメキシコ人、中年のイギリス人、アイルランド人がアメリカ人に交じって

走るうち、友情や愛情が芽生えます。他にも新聞記者や各地の人々など、いろいろな人間関係がからみ、エピソード満載の内容です。日本にもひたすら歩く話（たとえば恩田陸『夜のピクニック』）で、一気に読ませる本はありますが、その種のトップは何と言ってもこれ。これを知らずして、走ったり歩いたり耐久レースは語るなかれ。それほどの名著です。

(学長 谷岡 一郎)

『日本映画 隠れた名作  
—昭和30年代前後—』

(中公選書, 2014.7)  
川本 三郎・筒井 清忠 著

ここに映画蘊蓄オジサン二人による昭和30年代前後の日本映画を巡っての楽しい対話が展開される。この頃、日本の映画会社は儲かっていた。潤沢な予算をかけ大作を手掛ける一方、他方では低予算の穴埋めプログラム・ピクチャーを大量に制作している。本書で語られるのは黒澤、溝口、小津などといった巨匠の傑作ではないが、それなりに捨てがたい秀作、佳作をものにした映像作家達の作品だ。久松静児、渋谷実、中村登など、少々邦画に親しんだ人なら、あれ？何か観たはずなんだがな、呟嗟に作品名を思い出せん、そうといった類の隠れた名画を撮った人達について語られる。

彼らは大作も手掛けるがプログラム・ピクチャー的な作品もこなす、いわば境界線上の作家

なのである。いま改めて彼らの作品群を観るとノスタルジーも感じられるのだが、それだけには止まらない。その映像に封入された「昭和」を客観視することによって新たな知見も得られるのだ。

プログラム・ピクチャー、この脱力系作品群も今観ると結構面白い。低予算ゆえセットを組めず街中でのロケを余儀なくされる。結果、意図せざる形で生の昭和の光景が映り込む。それは当時ありふれた光景であっても、今となっては研究者には貴重な歴史資料、年配者にはノスタルジーの対象、昭和マニアにはお宝映像となるわけだ。本書をガイドに、昭和の埋もれた名画を発掘調査してみませんか。



(図書館長 塩田 真典)

## 『トップエコノミストが教える金融の授業』

(かんき出版, 2015.2)  
上野 泰也 編著

著者は新聞や雑誌などが主催して集計している各種のエコノミスト・ランキングでしばしば1位をとるなど、現実の経済を日々直視している代表的なエコノミストである。それだけに、本書は大方の教科書で触れられていない、あるいは詳しくは書かれていない問題を懇切丁寧に説明している。

現在、久しぶりに株式市場が賑わっている。こうした状況を見て多くの人が、株式を買ってみたと思っているに違いない。しかし、「株価はどのようにして決まるのか」という肝心なことをまとめて、分かりやすく、現実即して書いている教科書は見当たらない。大方の経済学者は、株式の取引をしたことがないから、避けているのであろうか。一方、本書は、30ページ余りにわたって、株

価を動かす要因をわかりやすく説明している。

本書を特徴付けているのは、チャプター6「デリバティブ・証券化の基本」、チャプター7「金融商品の基本」、チャプター8「トップエコノミストの金融市場に対する見方と読み方」である。デリバティブ取引の基本がわかりやすく書かれているほか、数値例で実際の取引で損得が出る仕組みなど、著者でなければ書けないことが書かれている。

「これからは、公的年金制度だけに頼れない時代になった」「自己責任で資産形成に取り組まねばならなくなった」として株式、債券、投資信託、FX、REITの取引の基本の説明がされているが、要領を得て分かりやすい。ぜひ、参考にしてほしい。

(経済学部 教授 佐和 良作)



## 『弥縫録：中国名言集』

(中公文庫, 1986.10)  
陳 舜臣 著

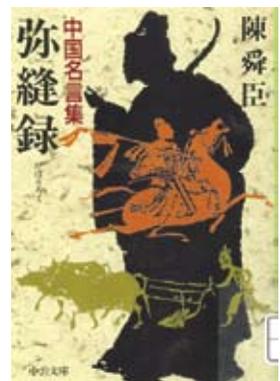
「びほうろく」と読みます。「うわあ～、難しい漢字、いややあ～！」と、読みもしないで敬遠するのは、愚か、あさはか、の極みでござる。サブタイトルに、「中国名言集」とある。

タダのちょっとしたツイートや雑言とは違って、1000年も2000年もの間、長く伝えられてきた「名言」であるならば、敬遠ではなく、真正面からの真っ向勝負で向き合ってみるのが賢明、というもの。脳ミソがぎゅっ！と引き締まります。

これからの時代、日本のお隣の中国という大国の存在感はますます大きくなる気配、その中国の歴史や文化、社会や思考方式をなあんにも知らずに済ませることは、隣人としては余りにも水臭く、さらには迂闊（「うかつ」と読みます m(^.^)m）に過ぎるといふもの。

本書がタダの名言の寄せ集めのお手軽な人生指南書やネット上の便利なだけの情報源と異なってすこぶる読み応えがあるのは、著者ならではの人間観察や中国史・中国人のメンタリティーの特性を知り尽くした「豊沃（ほうよく）」というべき教養・洞察に裏打ちされた内容に満ち満ちているから。「歴史の中で人間の営みは繰り返されてきたが、ひとつも歴史から学んでいないと思うときがある」と書く著者には、膨大な著作執筆の過程で長年積み重ねた、深い深い、深あい思ひがあります。冷戦体制や文化大革命で途切れた日中のヒトとヒトとの結びつきの大切さなども、改めて考えさせてくれるのが陳舜臣さんです。今年1月、日中両国はホント、惜しい人物を亡くしたのです。

(総合経営学部 教授 下山 晃)



# 学生選書スタッフ活動を振り返って

高田 雄大 (2015年3月 経済学部経済学科 卒業)

ジョン・ミルトンというイギリスの詩人の言葉に「良書は人類不滅の精神である。」という言葉がある。良書は偉人賢人の生き血、つまり生きている思想であり、滅び去ることのないものである。したがって、時代が変わっても良書はいつまでも生き続け、後の世を教え導いて、人類の文化の進展に寄与する。われわれはこれを大事に読み、保存し、伝えなければならない。

しかし、人が良書に出会うにはある程度の時間を要する。ましてや、四年間という学生生活の中では時間の制限もある。そこで大阪商業大学においてその中の「良書を伝える」役割を担っているのが読書会であると私は思う。自分で書籍を選択していくと偏りがでてくるであろうし、今の興味外の書籍と出会う機会は無いに等しい。しかし、読書会においては様々な人の心に引っかかった書籍が紹介される。自分の中に無い、新しい分野の書籍が紹介され、そこに興味を抱いたときに学ぶ欲求が生じるのである。私個人の意見であるが、学ぶということは与えられたものを消化していくことでは無い。むしろこういった学ぶ欲求によって動かされて自ら新しい世界へと飛び込んで様々

な知識を得る事こそが学ぶということであると考えている。

また、自分が読んだ書籍の内容を人に伝えることは、その書籍の内容をより深く理解する事が出来る行為であると私は考えている。やはり人にその書籍の知識や内容を分かりやすく簡潔に伝えようとまとめていくと、ただ読んだだけでは理解できていなかった部分が出てくる。また、自分の中で知識がしっかりと整理されるといった効果がある。勿論、先程にも述べたように良書との出会いがある事も良い事であったが、何よりこの学生選書スタッフにおける読書会の意義というものに出会った良書から得た知識の整理にあると感じた。

読書会はこのように非常に私の学生生活において有意義な存在であった。この文章を読んで頂いている学生の皆様には是非、この読書会というものを体験して頂きたいと思っている。今、大阪商業大学の他の学生、また教授の方々がどのような書籍を読んでいるのかを知り、興味を持てたのであれば是非ともその分野に飛び込んでいき、知見を広げていって欲しい。



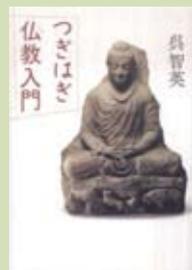
仏教系の高校に通っていたため講話も受講したが、わかりにくいところが色々あって、改めて確認するために読んだ。

「宗教とは」「仏教とは」「釈迦はどんなことを伝えようとしていたか」「他の宗教との違い」などが入り混じり展開されている。

著者は宗教というより文化評論の専門家で、幅広く「現在の思想」「縁起」「輪廻」などの概念に関する間違いが指摘されているところが面白く、読み進めることができた。

最近の学生は「実学」じゃないと社会で役に立たない、と考えている人が多いが、教養書を「学問に出会うことに意味がある」として享受できることが、幸せにつながると感じている。

～読書会での  
高田さん紹介図書より～



『つぎはぎ 仏教入門』  
呉智英 著 筑摩書房 (2011.7)



# 「大阪商業大学学術情報リポジトリ」

の提供を開始しました

「大阪商業大学 学術情報リポジトリ」は、  
本学の教職員・学生により作成された教育・  
研究成果を収集・保存し、インターネットを  
通じて無償公開するためのシステムです。

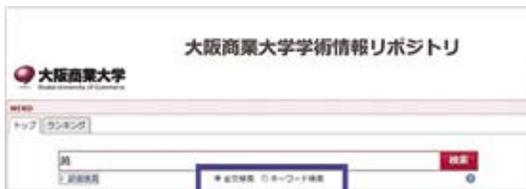
## メニュー画面へのアクセス

図書館サイト トップ画面メニュー「本学資料  
検索」より「学術情報リポジトリ」をクリックす  
ると、メニューが表示されます。



トップ画面では、①キーワード検索欄②イン  
デックスツリー③アイテムリスト④リンクリスト  
等が表示されています。

## ① キーワード検索欄



「全文検索」では、登録された内容からの検索  
結果が表示されます。「キーワード検索」では、  
指定したキーワードに該当するアイテム（論文  
等）が表示されます。

## ② インデックスツリー



公開されている刊行物ごとに閲覧する場合は  
「インデックスツリー」から選択します。

## ③ アイテムリスト



インデックスツリーで該当の刊行物を選択す  
ると、画面中央に収録文献のタイトル一覧が表示さ  
れます。

- ・執筆者名をクリックすると、当該執筆者の文献  
一覧が表示されます。
- ・「PDF」ボタンをクリックすると、PDF本文が  
表示されます。
- ・タイトルをクリックすると、論文の詳細情報（右図）が表  
示されます。



## ④ リンクリスト

2014年12月以前の刊行物は、発行機関サイト  
にて公開されています（タイトルまたは本文）。

# 図書館インフォメーション

## ◆展示コーナーをご活用ください

### 『新生活応援フェア』2階特設コーナー

新入生のみなさん、新たに一人暮らしや就活を始めるみなさんにお薦めする本を、特設コーナーに集めました。初心者向けレシピや勉強のコツが学べる本など幅広く集めているほか、今回は新たに「本屋大賞受賞・ノミネート作品」を追加しました。図書館2階に展示しています。この機会に、一度のぞいてみてはいかがでしょうか。（利用好調のため、貸出中の場合にご容赦下さい。）

## ◆2014年度 年間貸出ランキング

- 第1位** 聞く力 / 阿川佐和子著（文藝春秋，2012.1）  
長生きしたけりゃふくらはずをみなさい / 槇孝子著（アスコム，2013.7）
- 第2位** 作りおきそうざい / 主婦の友社編（主婦の友社，2013.12）
- 第3位** 幸福な生活 / 百田尚樹著（祥伝社，2013.12）  
目は1分でよくなる！ / 今野清志著（ダイヤモンド社，自由国民社，2013.12）
- 第4位** 海賊とよばれた男；上 / 百田尚樹著（講談社，2012.7）
- 第5位** 心配事の9割は起こらない / 柊野俊明著（三笠書房，2013.9）

## 2015年度 図書館開館カレンダー

6 月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	○	○	○	○	○	△
7	8	9	10	11	12	13
☆	○	○	○	○	○	△
14	15	16	17	18	19	20
☆	○	○	○	○	○	△
21	22	23	24	25	26	27
☆	○	○	○	○	○	△
28	29	30				
☆	○	○				

7 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
		○	○	○	○	△
5	6	7	8	9	10	11
☆	○	○	○	○	○	△
12	13	14	15	16	17	18
☆	○	○	○	○	○	△
19	20	21	22	23	24	25
休館	○	○	○	○	○	○
26	27	28	29	30	31	
休館	○	○	○	○	○	

8 月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
						○
2	3	4	5	6	7	8
休館	○	○	△	△	△	休館
9	10	11	12	13	14	15
休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館
16	17	18	19	20	21	22
休館	休館	△	△	△	△	△
23	24	25	26	27	28	29
休館	△	△	△	△	△	△
30	31					
休館	△					

9 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		△	△	○	○	○
6	7	8	9	10	11	12
☆	○	○	○	△	△	△
13	14	15	16	17	18	19
休館	△	休館	休館	休館	休館	△
20	21	22	23	24	25	26
休館	☆	☆	☆	○	○	△
27	28	29	30			
☆	○	○	○			

○: 8:00~22:00(平日 20:00以降2Fのみ)

△: 9:00~18:00(土曜)

○: 8:00~22:00(ウォーミングアップ週間(授業・試験の準備期間))

☆: 9:00~18:00(2Fのみ)(日・祝)

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。開館日程および時間は変更されることがあります。詳細は図書館1階掲示板・館内配布チラシ・ホームページ等でお知らせいたします。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第46号

平成27年5月31日発行

大阪商業大学図書館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話 (06) 6781-5280 FAX (06) 6781-0089

e-mail: lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス: <https://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928